

「風力発電施設に係る風景研究会」 での議論について

1. 風景・景観の分析、評価、操作のための整理
2. 自然公園における景観について

平成15年11月17日

下村彰男

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

1. 風景・景観の分析、評価、操作のための整理

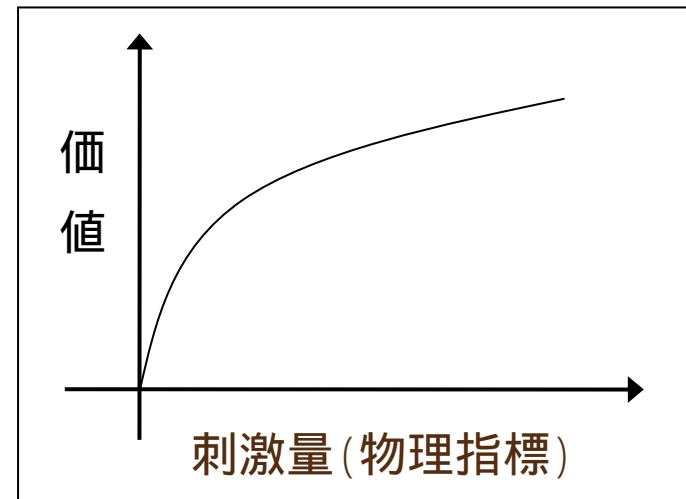
・風景・景観の問題は、なぜ「分かりにくい」、「主観的」と言われがちなのか。

- 1) 立脚点(観点): 枠組み整理の必要性
- 2) 関係の操作: ケースバイケースの対応
- 3) 意味: 視覚像とその背景

1) 立脚点(観点) : 枠組み整理の必要性

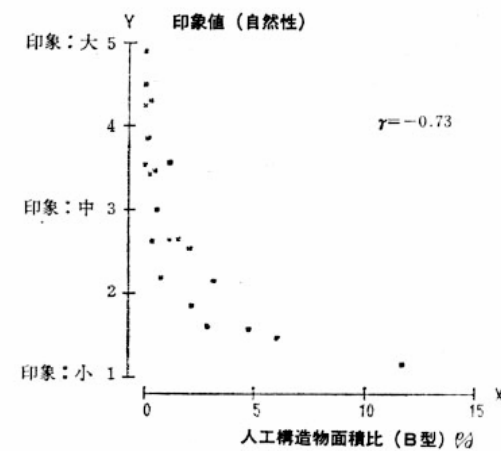
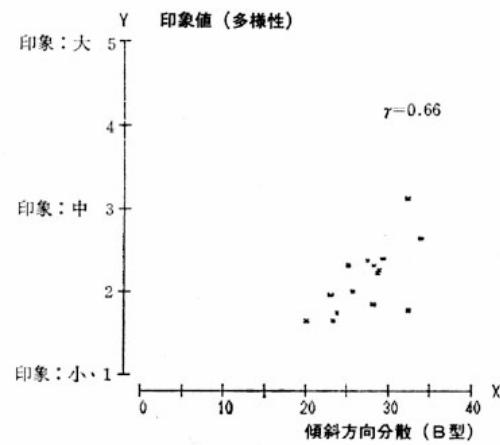
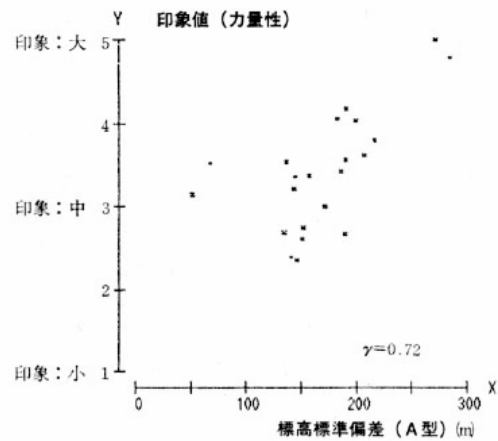
* 風景・景観は総合的、複合的事象であり、分析的に捉えるためには立脚点(観点)を明確にする必要がある。

・ 風景・景観とその価値との対応を検討するためには、分析等の枠組みを整理し、立脚点を明確にする必要がある。



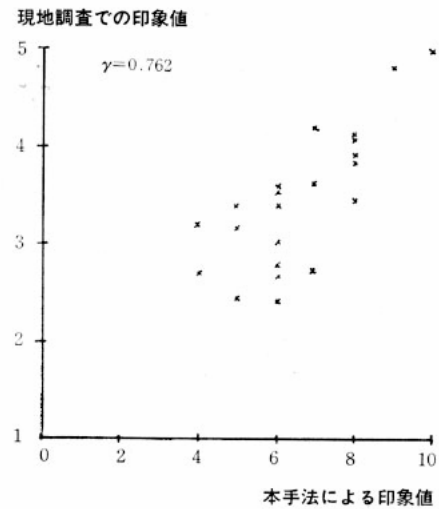
・例えば、「優れた」「美しい」は総合的価値軸であり、分解して考える必要がある。

< 現地での印象評価値と物理指標との対応 >

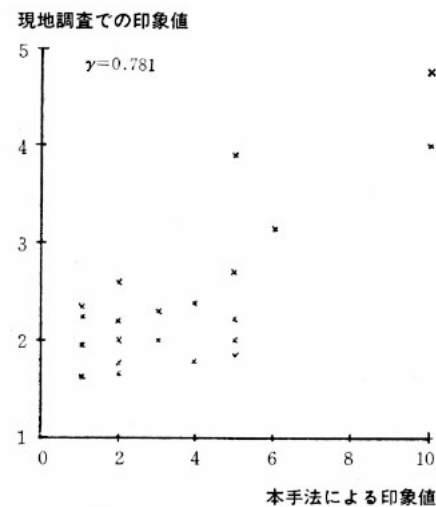


< モデルによって求めた評価値と印象評価値との対応 >

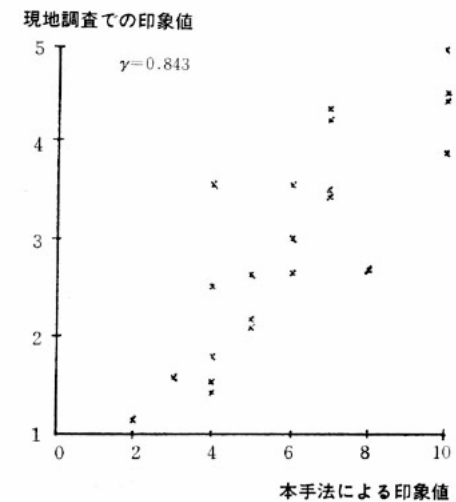
● 力量性 (垂直方向)



● 多 様 性



● 自 然 性

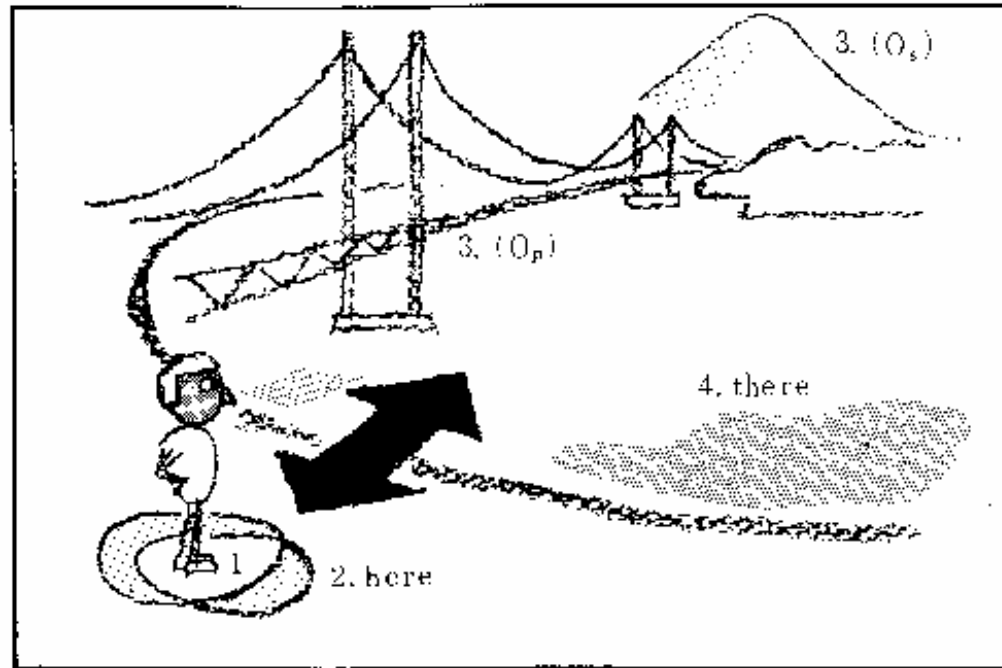


2) 関係の操作: ケースバイケースの対応

* 景観の計画、設計とは下記の要素の「関係の操作」であり、対応はケース毎に異なる。

1. 視点
2. 視点場
3. 主対象
4. 対象場

(シーン)景観把握モデル
(篠原修による)



例・「対象場」と「主対象」との関係



対象場への同化に配慮されている例



対象場との対比が図られている例

例・「視点場」と「主対象(対象場)」との関係

・視点場の処理による、「here」「there」の関係の演出例



「here」「there」の明確化により、主対象(対象場)の「対象化」が図られている例



「here」「there」の曖昧化により、主対象(対象場)との「同化」が図られている例

例・主対象(要素群)における要素相互の関係



「統一感」と「多様性」のバランス

【画一的】



【煩雑】

3) 意味 (視覚像としての景観の背後にあるもの)

* 風景・景観の分析、評価に際しては下記のような立脚点からの検討がある。

視覚論的検討：ディスプレイ論、調和、構図

身体論的検討：人間尺度、仮想行動

意味論的検討：歴史、文化、地域個性、原風景、
生活様式

* 意味論的検討への関心が高まりつつある。

3) 意味 : 「調和」と「親和」

調和 : 視覚論的立場からの評価検討

「同化型調和」

「対比型調和」

親和 : 意味論的立場からの評価検討

親和するためには(場所的)必然性
と時間が必要